

水稲の今後の管理について

◎水管理

適切な水管理をすることで米の品質低下を抑えましょう。
高温による白未熟粒は、根へ十分な水と酸素を供給することで軽減できます。

生育時期	幼穂形成期	穂ばらみ期～出穂開花期	乳熟期～糊熟期
水管理	間断灌水 3日湛水・2日落水	3～5cmの湛水 ※連続5日以上は行わない	間断灌水 3日湛水・2日落水

- ・落水は収穫の7～10日前（湿田は少し早く）を目安に行いましょう。
- ・早期落水は未熟米、乳白米などの原因となります。

◎いもち病

いもち病は、雨や曇りが続き、日照不足・高温多湿の条件で発生しやすくなります。

初発生時に防除を行えるよう、圃場を見てまわり、早期防除を行いましょう。

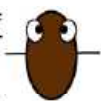
薬剤名	適用病害虫名	使用時期	10aあたり 使用液量	希釈倍率
ブラシンバリダフロアブル	いもち病 紋枯病 ごま葉枯病	収穫14日前まで	60～150L	1000倍

※使用量・時期の確認を行い散布をしましょう。



トビイロウンカ短翅成虫・ 幼虫の特徴

- ・小さい(大きなものでも3～5mm)
成虫でも5mm
老齢幼虫で3mm程度
- ・丸っこい
- ・体色は褐色(トビイロ)
- ・水面に落ちると水平に足を広げる



◎トビイロウンカ

トビイロウンカは高温多照の天候で発生が助長されます。8・9月が高温・少雨の場合は注意をしてください。

発生状況を確認し、必要なら追加防除をしましょう。

大豆の中間管理について

◎ 中耕培土

毎年悩まされる雑草対策と収量向上のために中耕培土を適切な時期に2回行いましょう。

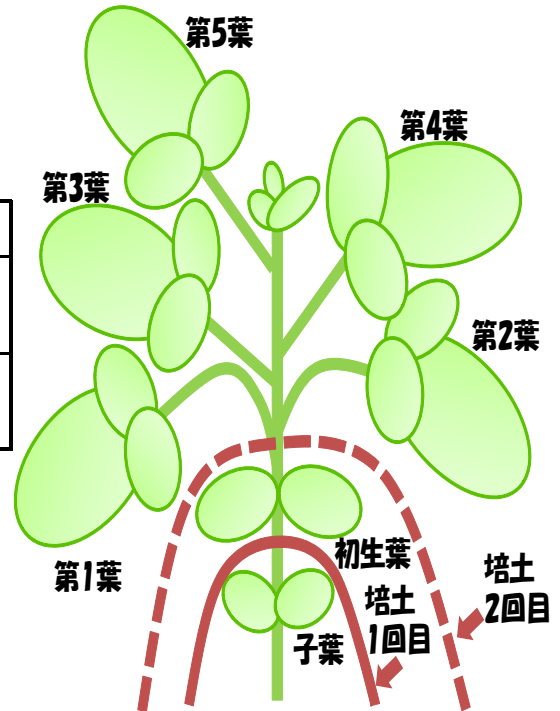
中耕培土の適期

回数	時期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉5～6葉期 (播種後30日頃)	初生葉が埋まる程度

※播種遅れにより2回実施が難しい場合は、本葉4～7葉期を目安に、1回実施します。

～注意事項～

- 大豆が大きくなると、根や葉を傷つけます。遅くとも開花期前に行ってください。



◎ 雑草対策(薬剤)

初期除草剤や中耕培土を行っても生育中の雑草を抑制できない場合は、生育期除草剤の使用を検討しましょう。

生育期除草剤

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	10aあたり 散布液量	使用回数 及び注意事項
ワンサイドP 乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	収穫60日前まで (イネ科雑草3～5葉期)	75～100mL	100L	1回
ポルト フロアブル		収穫30日前まで (イネ科雑草3～10葉期)	200～300mL		
大豆バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花前 但し収穫45日前まで (雑草生育初期～6葉期)	100～150mL		1回 (畦間雑草茎葉散布)
		大豆の生育期 但し収穫45日前まで (雑草生育初期～6葉期)	300～500mL		
アタック ショット乳剤 (※2)	一年生広葉雑草	大豆の2葉期～開花前 但し収穫45日前まで (雑草生育期)	30～50mL	1回	

※1 薬剤ごとに適用葉齢、使用量・時期が異なるので、ラベル等をよく読み使用しましょう。

※2 アタックショット乳剤は薬害が発生しやすいので、使用量等に注意し使用しましょう。また、展着剤は使用不可。混用も不可です。

～農作業事故に注意しましょう～

宇佐市内で農作業事故が発生しています。

農作業はあわてず、あせらず行い、安全確認を徹底しましょう。

ブレーキ連結の確認やシートベルトの着用など事故の予防対策をしましょう。